

「精霊の守り人」 上橋 菜穂子 偕成社 ＜うえ・日本＞ 用心棒のバルサは女だてらに短槍(たんそう)の腕が立ち、「短槍使いのバルサ」の通り名を持っています。ある日川でおぼれた少年を助けます。その少年は新ヨゴ皇国の第二王子チャグム。その身に精霊(せいれい)の卵を宿しているために父王に命をねらわれているのです。チャグムを守るため、バルサは力をつくして…。「守り人シリーズ」第1作目。	本の森 ＜小学5・6年生編＞ 〔※ホームページ版では、表紙画像を掲載していません。〕 香芝市民図書館 H26. 3	「キャプテンはつらいぜ」 後藤竜二 講談社 ＜ごと・日本＞ 1学期が終わり、今日も川原で少年野球チーム・ブラック=キャットの練習です。万年最下位のチームを良くしたい勇ですが、6年生の先ばいともめてしまい、キャプテンの岸さんもやる気のない先ばいもやめていきます。6年生の引退でキャプテンになった勇ですが、ピッチャーの吉野くんもやめると言い出して…。	「冒険者たち」 斉藤 惇夫 岩波書店 ＜さい・日本＞ ドブネズミのガンバは台所の床下の貯蔵穴に住んでいます。部屋は清潔で風通しもいいし、好きなジャガイモもすぐ食べられますので、満足していました。ある夜、ガンバを友達のマンプクが「海に行こう」と誘いに来ました。ガンバは海を見たことはありません。数日留守にするだけだと、一緒に出かけるのですが…。
「ルドルフとイッパイアッテナ」 斉藤洋 講談社 ＜さい・日本＞ ししゃもを盗んで、魚屋にしつこく追いかけられていた黒猫のルドルフは、トラックの荷台に逃げた時、モップが頭に当たり気絶してしまいます。気がつくと、トラックはルドルフの知らない大きな街を走っていました。そして、街に降り立ったルドルフを大きなトラねこが待っていて…。	「キツネ山の夏休み」 富安陽子 あかね書房 ＜とみ・日本＞ 弥(ひさし)は、4年ぶりに夏休みをおばあちゃんの家で過ごすため、稲荷山行きの電車を待っていました。小さなホームには弥だけ。と、桜の木の下に女の人立っています。その人は、弥が稲荷山に向かうと知ると、鼓ヶ池の妹に手紙を渡してほしいと言い、弥に手紙をおしつけ、消えるようにいなくなってしまい…。不思議な出会いから、弥の夏休みが始まります。	「西の魔女が死んだ」 梨木香歩 小学館 ＜なし・日本＞ 「西の魔女が死んだ」と聞いた時、まいは授業中でした。お母さんの車で魔女の家へと向かう間、まいは2年前に魔女、おばあちゃんと過ごした事を思い出していました。学校に行けなくなったまいは、両親のすすめもあり、1ヶ月あまりイギリス(英国)出身のおばあちゃんと暮らすことになったのです。そのうちに、まいは魔女になる修行を始めることになり…。	「きまぐれロボット」 星新一 理論社 ＜ほし・日本＞ エフ博士は、新しいマクラを発明しました。それは、眠っていても勉強ができるようです。試作品なので英語しか勉強できないが、おそらくききめはあるとのこと。試しにとんりの家の主人が使ってみたのですが…。この「新発明のマクラ」のほか、ショート・ショートの確立者、星新一による30作を収録。
「注文の多い料理店」 宮沢賢治 岩波書店 ＜みや・日本＞ 狩りで山奥に入った二人の紳士(しんし)は、案内の獵師(りょうし)ともはぐれてしまい、途方にくれていると「西洋料理店 山猫亭」を見つけました。ここで何か食べられるだろうと、二人は中に入りますが、廊下(ろうか)と扉が続いているみょうな家です。各部屋の扉には、「はきもの泥をおとしてください」とか「金物類はおいていってください」という注文が続いていて…。	「子どもに語るアンデルセンのお話」 アンデルセン こぐま社 ＜アン・外国＞ おなじみのアンデルセンのお話。「一つのさやから出た五つのエンドウ豆」や「おやゆび姫」「はだかの王様」「豚飼い王子」など、興味深いお話が9つ入っています。どれか一つでも耳にしたことはありませんか？	「魔法のカクテル」 ミヒヤエル・エンデ 岩波書店 ＜エン・外国＞ 大みそか、魔術師(まじゅつし)イルヴィツァーは、大地や川を汚し、病気をはやらせるなどの地獄の魔王(じごくのまおう)からの命令を行えず、困っていた。そこで、訪ねてきたティティおばさんとともに魔法のカクテルを作り始めますが…。さあ、命令を果たすことができるのでしょうか？	「ふたりのロツテ」 エーリヒ・ケストナー 岩波書店 ＜ケス・外国＞ ふたごのルイーゼとロツテは両親が離婚(りこん)したことにより、離れ離れになってしまいました。ある夏、林間学校で一緒になった二人はなんとかして両親を仲直りさせようと思いますが…。はたして両親は仲直りできるのでしょうか？

「シャーロック・ホームズの冒険」 コナン・ドイル 岩波書店 ＜ドイ・外国＞ シャーロック・ホームズとホームズの親友ワトソンくんがイギリスを舞台に大活躍(だいかつやく)するお話です。 この本の中には、『赤毛連盟』『口のまがった男』『青い紅玉』『まだらのひも』などが入っています。	「風にのってきた メアリー・ポピンズ」 P.L.トラヴァース 岩波書店 ＜トラ・外国＞ メアリー・ポピンズは桜町通り17番地バンクス家にやってきた子どもの世話をするお手伝いさんです。 メアリー・ポピンズと一緒にいれば、たくさんの不思議なことに出会います。さあ、バンクス家の子どもたちと一緒に(いっしょ)に不思議な体験をしてみましょう。	「黒い兄弟＜上・下＞」 リザ・テツナー あすなろ書房 ＜テツ・外国＞ 昔、スイスの山奥(やまおく)に住む貧(まず)しい農民たちは自分の子どもをミラノの煙突掃除夫(えんとつそうじふ)に売っていたことがあるそうです。 この本の主人公ジョルジュもミラノの煙突掃除夫に売られてしまった子どもの1人です。つらい中でも助け合うジョルジュとその仲間たちの運命は一体どうなるのでしょうか。	「少女ポリアンナ」 エリナー・ポーター 岩波書店 ＜ポタ・外国＞ ポリアンナは両親と死別(しべつ)し、母親の妹にひきとられることになりました。ポリアンナの明るさと「うれしくなるゲーム」によって、やがて町中が幸福になっていきます。 さあ、あなたもポリアンナから幸せを分けてもらいましょう。
「ひとしずくの水」 ウォルター・ウィック あすなろ書房 ＜435＞ 水道のじゃ口から落ちた水のしずくは、はじめは“糸”をひくように、それからまるい“球”になり、少し平たくなって、細長くなって落ちていきます。 雲、雨、雪、氷、水蒸気、さまざまに姿、形を変える水をたくさん写真とともにわかりやすく紹介しています。	「世界一おいしい火山の本」 林信太郎 小峰書店 ＜453＞ 一度、噴火(ふんか)すると大きな被害(ひがい)をもたらす火山。日本にはたくさんの火山があり、噴火に出あう可能性(かのうせい)も高くなります。それだけに火山のことを知っておくことは大切になってきます。 でも、難しい…。そんなときは、キッチンにあるもので実験してみましょう。「スポンジケーキとココアを使った土石流実験」など、おいしい実験が紹介されています。	「ファール昆虫記2 狩りをするハチ」 ファール 集英社 ＜486＞ ふだんは、花のミツをすって生活をしているハチ。でも、子どもを育てる時だけ獲物(えもの)を狩(か)るのです。それめがんにょうな体をもつゾウムシだったり、自分よりも何倍も大きいイモムシだったり。その狩りの方法も、獲物が絶対にくさらない方法なのです。一体、それはどんな方法なのでしょう。 そして、その方法をだれにも教わらずに行うハチの本能(ほんのう)の不思議にせまります。	「お米は生きている」 富山和子 講談社 ＜616＞ 私たちが毎日食べているお米。このお米が今の日本の自然や文化を作ってきたのです。森に池に古墳。それから、お祭り、すもう、奈良の都。そして、「日本」という国そのものも… 日本人とお米が切っても切れないものであることがわかる本。
「木はえらい ～イギリス子ども詩集」 谷川俊太郎・川崎洋 編訳 岩波書店 ＜931＞ 「お父さん　なんでぼく　学校に行かなきゃならないの　お願い教えてよ」としつこくたずねる「なんで学校に行かなきゃならないの」など、子どもたちの気持ちを子どもたちの日常の言葉でうたった72の詩が入っています。	「木を植えた男」 ジャン・ジオノ あすなろ書房 ＜Eキ＞ 1913年、私はフランスの山深いところを歩いていた。そこは、草木もまばらで全くのあれ地だった。私はそこで1人のひつじ飼(か)いに出会った。彼は、草木もほとんど生えなない不毛の土地にダングリを植えこんでいた。その次の年、戦争がはじまり、私も5年間、戦場で過ごした。戦争も終わり、あのひつじ飼いと会った場所へ行ってみると…。	「せいめいのれきし」 バージニア・リー・パートン 岩波書店 ＜Eセ＞ 「地球上にせいめいがうまれたときから、いままでのおはなし」を、「古生代」「中生代」「新生代」「現世」「このごろのひとびとの生活」の5まくの劇の形で紹介した絵本です。おはなしは、「プロローグ」として、生命が生まれるはるか前、地球が生まれるときからスタートします。それから、1まく。舞台は、海の底へ…。	「雪の写真家ベントレー」 ジャクリーン・ブリッグズ・マーティン BL出版 ＜E2 チシキ＞ ウィリーは雪が大好きで、雪の美しさは、どんなものにも負けないと思っていました。その雪の美しさを何とかみんなに知ってもらいたいと考えていました。ある時、顕微鏡(けんびきょう)つきのカメラを買ってもらい、雪の写真をとることに成功しました。でも、周りの人は、雪の写真に見向きもしなかったのです。